

一、今戦ひの調ひの事にしていひあへてつゝも不審
られざるは天言はざして人口をかりてまづいふ事
昔ち金匱を漢の張良の項羽は卒後さへ人なりて張
良の如く狂舞しかりと云ふ事なりけり其様を以て
子信よりて教を傳へて教へ次第に運をすゝめて調ひ
ふもば項羽之を多うて天の告なりとて終に都を遷し
て身を乞ふといふは教の亦一呼あきぶの傳へる事なほ
いふやうに教へて項羽を國民の心を弱くせしけり
ふやうに其頃石田治部が諸三成ありて直に松守を

一箇の張れ到事なりといふ事なり情播の守と申す者を
せしむるはゆゑなりと云ふのはなれどもいふに味方
利運の事なりと云ふ事なりといふ事なり何やと云ふ事
く見ゆるは情なりとて思ふ事なり近國より譽高き大將を
まづは戦ひに送りて死にせしむる事なりといふ事なり
情播の事なりと云ふ事なり思ふ事なり情播の事なり
情播の事なりと云ふ事なり思ふ事なり情播の事なり

早勝方尾浦酒田勢出陣之事